

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2790400036		
法人名	三協グループ株式会社		
事業所名	第3グループホーム「やすらぎ」(彩咲庵)4F		
所在地	大阪市港区弁天5丁目11-20		
自己評価作成日	平成24年9月16日	評価結果市町村受理日	平成24年12月27日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人ニッポン・アクティブライフ・クラブ ナルク福祉調査センター		
所在地	大阪市中央区常盤町2-1-8 親和ビル4階		
訪問調査日	平成24年10月31日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

当社の運営理念に掲げている「職員・利用者様・ご家族様が心からの笑顔で結ばれる介護を実施いたします」を常に全スタッフが心がけ、全てのお客様が笑顔になられるよう、スタッフも笑顔で接しています。また、建物自体も皆様が「施設」というイメージではなく「家」という認識を持って頂くために、各ユニットの入り口には玄関があり、各居室には表札をあげさせて頂いています。食事については、厨房を設置しており、最終調理を各ユニットでコックが仕上げることで、出来立ての温かい食事をご提供させて頂いています。但し、入居者様に作って頂く日も週に1度は設けており、皆様と和気あいあいと調理をする日もご用意しております。地域との交流については、月に1度、地域清掃を行ったり近隣のコンビニとの連携により定期的に訪問販売をして頂いたり、繋がりを持って頂く機会も持っております。色々な視点から、ご利用者の日常生活にメリハリが持てるよう取り組んでおります。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

3階は「結咲庵」、4階は「彩咲庵」というユニット名で、しゃれた表札が玄関玄関に掛けてあるの。一見、高級割烹料理店風なしつらえである。1階には厨房施設が整備され、専属のコックさんが作る料理が提供されている。「食」を大切に、「食」を楽しんでもらうという運営者の思いが伝わってくる。週に1回は利用者の食べたい献立を協力して調理するなど、生活に変化をつける工夫も行われている。利用者はゆっくり流れる時間の中で、思い思いのやり方で穏やかに過ごしている。毎日の暮らしが笑顔で、安心して過ごせるように、職員全員が知恵を出し合いながら介護に従事している様子を感じられる。またスタッフが清掃ボランティアを行うなどをして近隣と親しく接することで、事業所に対する理解と協力を得ようという努力も行っている。介護記録の写しが毎月家族宛に届けられ、家族の安心に繋がっている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	入社当初に新人研修を行い、その中でグループホームの理念や意義を理解してもらい実践に繋げるように努めている。また、毎朝の朝礼時に理念を唱和し、日々のサービスにも理念に基づいたサービスが提供出来るよう取り組んでいる。	「笑顔」と「家」をキーワードとした理念を掲げて、それを職員の介護の原点として、日々のサービスに取り組んでいる事業所である。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域行事の参加や、町内会の班長会議に出席するなど、地域の方々当施設の存在を理解して頂くように努めている。また、地域交流の一環として、近隣のコンビニに訪問販売に来て頂いたり、町内のゴミ拾いを実施している。	以前から近所に設立されている系列の二つのグループホームと合わせて、地域との付き合い、自治会行事への参加が行われている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	近隣地区からの見学の対応や相談、その他の状況に応じて対応している。また、地域の役員の方々や社協とも運営推進会議を通じて地域連携について話し合いをしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月に一度の開催時に、現状の取り組みや、ご利用者の近況状況などを報告し、その都度意見を頂き、出来るところから改善に向けて取り組んでいる。	2ヶ月に1回の頻度で開催されている。開設前から近隣には建設計画の情報発信に努めるなど、地域密着の事業所運営に会議を活用している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市の担当者には、運営する中で些細な事でも不明な点があれば、電話対応や、直接伺い相談に乗ってもらっている。また、施設の実情なども伝えており理解を得ている。	行政の担当窓口と接触する機会を多くとるよう心がけている。事業所の運営や実情について相談や助言をもらうなど、行政窓口との協力関係の維持に努めている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	コンプライアンス及びリスクマネジメント委員会を中心として身体拘束をしないケアに取り組んでいるが、施設の自動扉については、基本は施錠はしていないが、夜間帯にユニット毎に1名体制になる時のみ防犯も兼ねて自動ロックがかかるようになっている。	職員はリスク委員会で身体拘束が認知症の利用者に与える影響等を勉強しながら、玄関や居室の施錠の工夫を行っている。帰宅願望の強い利用者には、個別にやさしく対応していた。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修会にて虐待に関する内容や具体例など通じ学んでいる。また、内部委員会を中心として虐待防止に努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修会にて制度を学び、職員に伝達している。また、必要時には部署内や地域包括支援センターとも相談し、話し合いの機会を持つようにしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には必ず、契約書並びに重要事項説明書の書面を基に、口頭にて詳しく説明し納得を得ている。また、その時に、お客様から質問があった際には、理解できるよう丁寧に返答するようにし、その後、同意の署名と捺印を頂いている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	気軽に意見を頂けるよう、ユニットの玄関先に意見箱を設置している。また、家族様の訪問時には近況報告を伝えると共に、要望や意見を伺うようにしている。ニーズについてはミーティング時に話し合い、ケアプランに反映させ実施に移している。	日々の暮らしぶりを「やすらぎ」よりのメッセージでこまめに報告すると共に、健康状態については医師の所見を毎月家族宛に届けているので家族にとっては安心感が強い。個々の問題はその都度に家族と相談して利用者への対応を行っている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	入社時研修に会社の方針を説明し、ミーティングをはじめ個別対応などで気軽に意見や提案出来る環境づくりを実践している。また、ユニットリーダーを中心に、自分たちで考えて実践出来る環境にしている。	社員教育の徹底、働きやすい職場作り、チームワーク作り等に様々な経営的工夫が見られ、職員が改善提案している様子が伺える。	新事業所の開設により、新入スタッフも増えているのでスキルアップのための研修に力を入れることや職員の顔が家族に見えるような工夫が期待される。
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	いつでも個別での話や相談は聞き入れている。また、管理者を中心として代表者との連携も出来ており、スタッフの意見も収集しやすい環境となっており、即時対応が出来ようになっている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内での定期研修会の実施や外部研修の参加を奨励している。また、個人的受講希望にも応え、履修後の報告・伝達学習の体制も整えている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	港区GHネットワークに加盟し、勉強会や交流の機会を設けている。また、相互に施設見学なども行っており、互いにサービスの質の向上に努めている。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	導入の段階で、まずはご本人が不安とされているお困り事をゆっくりと伺うようにしている。段階に応じてご自宅へ訪問しご本人の今まで生きて来られた生活スタイルや状態などを把握させて頂き、ご本人との関係作りに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	導入の段階で、まずは来訪して頂き、見学も踏まえた上でしっかりと相談に応じるようにしている。段階に応じてご自宅へ訪問し、ご本人の様子を伺うと共に家族様からのニーズも把握し、出来るだけ家族様の立場に立った対応にも心がけている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	導入の段階で、ご本人の在宅での今までの過ごし方や、これからことも踏まえて、何が今ご本人や家族様に必要であるか、居宅も絡めて柔軟に対応している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	個々の個性を尊重し、入居者様同士がお互い良好な関係が保てるよう、職員が間に入るなど対応に柔軟性を持たせている。また、入居者様は人生の先輩であり、入居者様から教わることも多々あり、職員とも良好な関係が築けている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族様が面会に来られた際は、一緒に食事を摂って頂いたり、散歩や外出などで触れ合って頂くことで家族の絆を深めて頂いている。また、行事の際にも必ず声をかけさせて頂き、楽しいひと時を過ごしてもらえるよう支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会は365日、24時間いつでも可能であり、外出・外泊も自由であるため、家族様やご友人が来訪されたり、出かれる時にはゆっくりと過ごして頂き、これまでの関係を維持できるよう支援している。	事業所内で、近所のコンビニからミニ店舗が開かれる。本人のこれまでの生活歴や人間関係の把握に努め、事業所の生活でも、以前と同じような暮らしが継続して出来るように努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者様の個々の性格やADLの状態を見極めながら、家事作業の分担や共同でふれあえる時間を作るなど、それぞれが役割を持って、関係性が良好になるよう支援している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了時にも、お客様には何時でもご相談・来訪して頂けるよう声をかけており、終了後もフォローが出来る支援体制を整えている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	アセスメント時にこれまでの生活状況や、これからの望みや希望などを伺い介護計画を作成している。また、ご家族からも生活歴や家族様からのご要望などを伺い、ご本人の想いに出来限り寄り添える支援を心がけている。	本人が事業所での生活を毎日、どのように過ごして行きたいか、について本人の希望を聞き、アセスメントや引継ぎで職員に徹底し、本人の希望に沿った支援が出来るように努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	自宅に伺い、これまでの生活状況や自宅の様子などを確認し、極力環境に変化を生じさせないよう支援している。また、在宅サービスをご利用されていた方は、担当ケアマネより情報収集し、合わせてご本人が暮らしやすい環境を整えている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の業務にて常に入居者様の状態把握に努めており、状態観察を実施している。また、個々の状態に合わせて、出来ることや出来ないことなども会議やミーティングで共有し統一ケアが出来るよう努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人・家族様より、これからの暮らし方についてニーズを確認し、主治医や関係者などの意見も踏まえた中で、より良い生活が提供できるよう計画を作成している。	本人及び家族から事業所での暮らし方の希望を確認し、かかりつけ医、関係者の意見を入れて支援内容を明確にし、支援開始後にはスタッフによる観察、モニタリングを繰り返しながら、介護支援計画書の見直しを行っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	入居者別記録用紙(タイムテーブル)や申し送りノートなどに、日々の様子や変化などを記載し職員全体が把握した上で実践に繋がっている。また、記録も参考にしながら計画も立てている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	突然の家族様やご本人からのご要望などには、その時々に応じた対応を出来る範囲で協力させて頂いている。現状の例としては、仁丹を購入したいと希望が強い方に、一緒に薬局まで行き購入してもらうなどの事例もありました。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	買い物が好きな方が多いため、近隣のコンビニに協力してもらい、月に2回訪問販売してもらっている。現状はほとんどの方がコンビニの訪問販売を楽しみに待っておられます。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	基本は、当施設と提携している主治医により、普段の体調管理を行っているが、急変時や、他の病院を希望される場合は、希望される主治医との連携を密にし、適切な受けられるよう支援している。	家族や本人の希望を優先した医療支援体制を基本としながら、主治医と連携して利用者の体調を毎月文書にて報告している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	提携医療機関の訪問看護師が定期的に体調確認に來られ、気づいた事を伝達したり助言を頂くようにしている。また、救急や夜間等にも即時対応が取れるよう連携しており入居者様が安心して受診や看護を受けられる体制を作っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には、職員が病院に出向き、施設での様子を書面媒体で報告している。また、退院時にも入院時の様子を伺う等、サマリーを通じて情報を頂くようにしている。また、情報を提携医療関係にも伝達している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域との関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した方には、ご本人やご家族の意向の意向のもと、主治医と連携を取りながら、状況に応じた支援に努めている。	入所時に事業所で出来る重度化への対応を家族に説明し、具体的に対応が必要になった時点で、主治医の意見や指示を仰ぎながら支援する対応となっている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	事業部内のリスクマネジメント委員会等を通じて定期的に取り組んでいる。また、消防署との連携により、普通救急救命研修を実施し、受講修了書を発行して頂いている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に2回、火災・避難訓練を入居者様を交えて実施している。また、運営推進会議等にも取り上げて頂き、地域で行う図上訓練等にも参加し避難方法を検討している。	夜間の災害を想定した訓練も含めて、地域の力を借りる方策を検討している。定期的な訓練は消防の指導を受けながら行っている。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者様は人生の先輩であり、お客様であることから、言葉遣いにもプライバシーを損なわないように慎重に行っている。また、対応についても、必ず声をかけ、入居者様が了承したうえで実施するようにしている。	職員の声掛けや話し方、あるいはトイレ誘導時の声掛けは利用者のプライドへの配慮が徹底されている。個人ファイル類の管理についても注意した扱いになっている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	傾聴・需要・共感を基本とし、入居者様と関わりを持っている。また、行動を促すときにも、入居者様の意向や思いを尊重し対応する。入居者様からの意向が無い場合には、提案する方法を取り、出来る限りご本人で決定して頂くように努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者様のその日の体調や生活リズム等の調和を図りながら、健康で健やかに笑顔のある生活をして頂けるように支援している。また、入居者様に、希望なども確認し、出来る限り楽しみのある生活が送れるよう支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	定期的に訪問理美容に来てもらい、本人の意向でパーマや毛染めなどを選んで頂いている。また、各居室に洗面台を設置しており、リビングに出られる前に身だしなみを整えて頂いている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	週に一度は手作り日として、入居者様と共にメニューを考え買い出しや、調理の役割分担をしている。また、毎食ごと各入居者様には自分の食事後の茶碗や食器を洗っていただいている。	1階に厨房施設があり、専門の調理しがついた料理が提供されている。利用書の好きなメニューを独自に作ることも定期的に行っている。職員も同じ料理を食べながら、利用者が自分のペースで食べられるように介助を行っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	健康への配慮を基本とし、個々の食事量や水分量を調整している。また、摂取量も記録しており、体調変化の気づきや対応にも繋げている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケアを実施しており、義歯の方にも消毒を行っている。また、訪問歯科により定期検診を行っており、治療が必要な方には、ご家族にも説明し了承を頂いた上で治療を行っている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々の排泄リズムやパターンを把握し、日中は出来る限りトイレでの排泄を促し、入居者様に快適な排泄習慣が持てるよう支援している。	利用者個々の排泄パターンを記録で把握しながら、自立した排泄が継続出来るようにしている。トイレ誘導に気をつけながら、失敗を少なくするように努めている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事・水分摂取量の把握と水分摂取の促しや、生活習慣の中に動きのある役割をおり交ぜ、個々に合った運動不足の解消に努めている。また、排泄状況・便秘日数も記録して対応にあたっている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	身体状況に基づいて個別に入浴を行っているが、体調がすぐれない時には、入浴日をずらしたり、清拭を行うなど状況に応じて柔軟に対応している。入浴時間などもご本人と相談しながら決めている。	週に2~3回の入浴を行うようにしている。利用者がゆっくりと気持ちよく入浴できるように、職員が心がけている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	タイムテーブルにて1日の睡眠状況を記録しており、生活リズムが崩れないよう支援し、安眠に繋げている。また、日中においても休息が必要な方には、状況に応じて自室で休んでいただくなど、随時対応している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬チェック表を用いて、飲み忘れや誤薬がないよう留意している。また、提携医療機関や薬剤師とも連携し、服薬時の注意点や用法などの把握に努め、書類媒体でも、すぐに対応できるよう管理している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	その方の生活歴や性格を基本に、能力に応じた役割を心がけて入居者様の活動意欲を引き出すよう支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	定期的に散歩や買い物などを通じて外出の機会を促し気分転換に努めている。また、気候の良い時期には、入居者と相談しながら遺棄場所を決め遠足やドライブなどにも出かけている。	すぐ近くに公園あり、体調や天候を見ながら外の空気に触れる機会を出来るだけ増やすようにしている。また、季節の行事での外出も利用者の楽しみとなっている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	入居前にご家族様と十分話し合い書面にて確認を頂いた上で、個々に金銭を所持して頂いたり管理をしている。また、当然の行為ではあるが、買い物などで自分で買いたい物を自分のお金で買っていただくようにしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ホーム内には公衆電話は設置していないが、ご家族からの電話を入居者に取り次いだり、手紙のやりとりも希望があれば支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節に応じて、装飾品や花等を飾る事により季節ならではの雰囲気や味を味わえるように工夫している。また、温度変化や湿度にも細心の配慮を持って対応し、居心地の良い環境づくりに努めている。	家庭的な雰囲気を大切にしたいという、職員の意見が取り入れられたレイアウトになっている。特に、食堂やリビングは利用者が昼間の多くの時間を過ごす場所となっているので、様々なレイアウト上の工夫がされている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビング内でも大きく、食卓スペース・ソファスペース・サンルームに分けており、好きな時間に、好きな方同士で過ごせるよう配慮している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご本人の使い慣れた家具や思い入れのある品物を持参して頂き、ご本人に問いいて居心地の良い空間となるようご家族と一緒に考案している。	各部屋は独立した「家」を意識した設計に特徴がある。職員の配慮で利用者が少しでも落ち着いて過ごせるように、使い慣れた家具を家から運んでもらったり、写真などで部屋を飾ったりして、雰囲気作りに努めている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	バリアフリー設計で、各居室も表札をあげること、ご自身で居室が判別できるようにしている。居室の掃除なども、極力ご自身で頂くよう促している。		